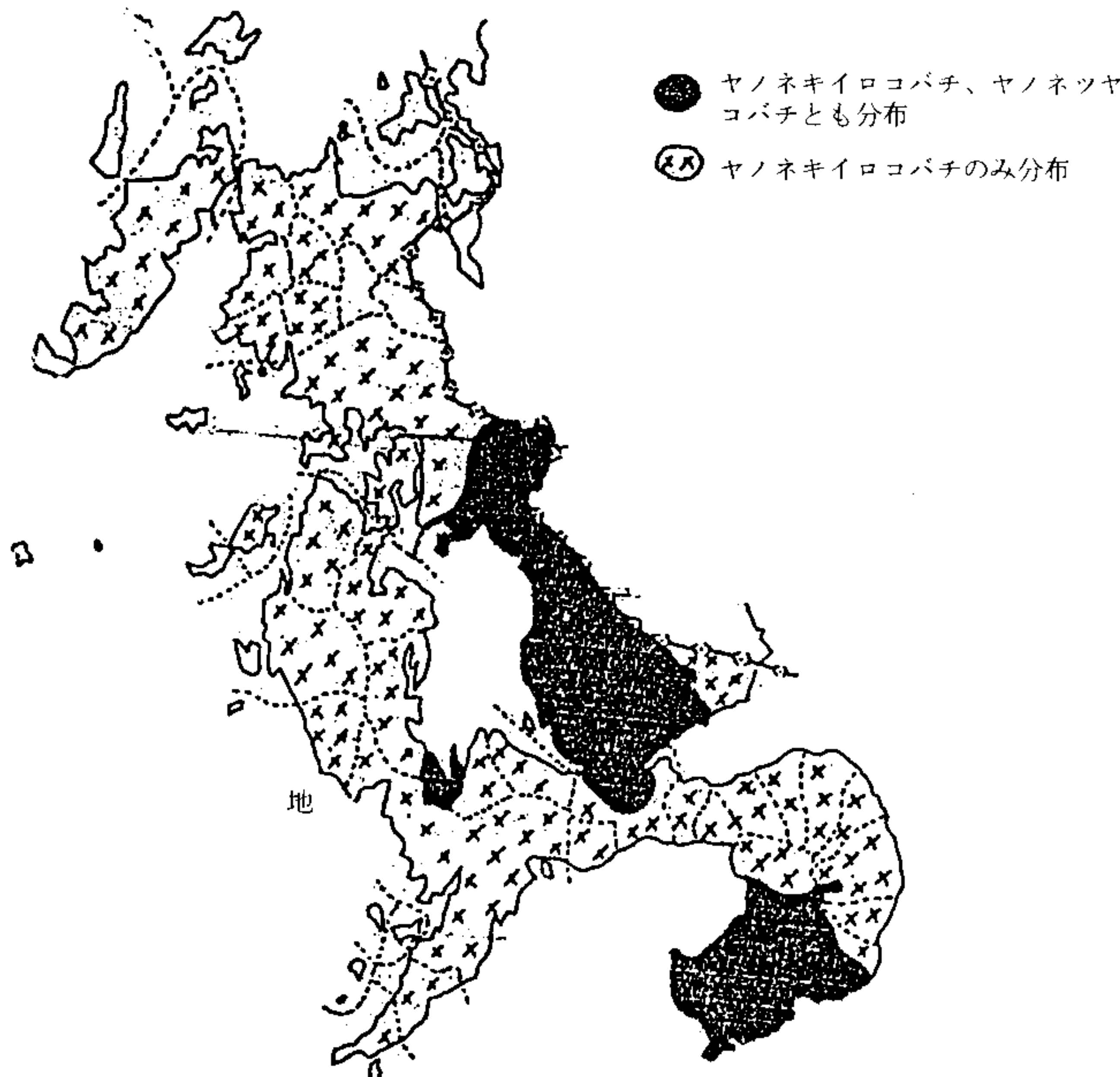


課題名	14. ヤノネカイガラムシの天敵、ヤノネキイロコバチとヤノネツヤコバチの放飼方法について
成果の要約	ヤノネキイロコバチは県内全域に、ヤノネツヤコバチは県央地域と島原半島南部に、昭和62年12月まで定着した。2種の寄生蜂の定着と増殖及び数年以内の周辺への分散を確保するためには、ヤノネキイロコバチは1地点雌成虫最低300頭前後、ヤノネツヤコバチは雌成虫最低50頭前後を4～5月または7～10月に放飼地点間の距離が約10km(ほぼ市町村に1地点)になるよう放飼する。
成績概要	 <p>● ヤノネキイロコバチ、ヤノネツヤコバチとも分布 ○ X ヤノネキイロコバチのみ分布</p> <p>長崎県(島しょ部を除く)におけるヤノネキイロコバチとヤノネツヤコバチの分布 (昭和62年12月現在)</p> <p>(長崎県果樹試験場)</p>
普及上の留意点	2種寄生蜂は、いずれもほとんどの殺虫剤と一部の殺菌剤に弱いので、放飼前後3ヵ月以内は、寄生蜂に影響の大きい薬剤の散布をひかえる。